

# 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター

## 2009 年度の活動

### 1. シンポジウム

#### 1) 第 10 回シンポジウム

日時：2009 年 12 月 12 日（土） 13:00～17:30

場所：東洋大学白山校舎 2 号館 16 階 スカイホール

テーマ：近い未来、遠い未来から—犯罪被害者と加害者、社会を考える—

企画趣旨・司会：

細井洋子（東洋大学社会学部）

第 1 部：対談「Journey to Hope：光への道」：

御手洗恭二（犯罪被害者・毎日新聞）・森達也（映像ジャーナリスト）

第 2 部：パネル・ディスカッション「現代の少年司法と私」：

草場裕之（弁護士）・佐々木央（記者・共同通信社）・中村すえこ（元加害少年・主婦）・御手洗恭二・森達也

### 2. 講演会

#### 1) 日時：2009 年 10 月 2 日（金）15:00～17:00

場所：東洋大学白山校舎 5 号館 5201 教室

講師：Tom Pyszczynski（University of Colorado at Colorado Springs）

テーマ：「Anxiety Buffer Disruption Theory: An Application of Terror Management Ideas to Post Traumatic Stress Disorder」

司会：

安藤清志（東洋大学社会学部）

コメンテーター：

脇本竜太郎（安田女子大学）

#### 2) 日時：2009 年 10 月 3 日（土）14:00～16:00

場所：東洋大学白山校舎 6 号館 6201 教室

講師：Tom Pyszczynski（University of Colorado at Colorado Springs）

テーマ：「The Cycle of Righteous Violence: Forces that Increase and Decrease Support for War and Terrorism（正義の暴力の連鎖—戦争とテロリズムへの支持に影響を及ぼすカー）」

司会：

安藤清志（東洋大学社会学部）

コメンテーター：

脇本竜太郎（安田女子大学）

#### 3) 日時：2009 年 10 月 10 日（土）

場所：大阪大学吹田キャンパス

講師：趙 恩慶（翰林大学校社会科学部）

テーマ：「Applying social psychology to criminal justice in Korea（韓国における刑事裁判への社会心理学の応用）」

企画：

東洋大学 HIRC21・日本社会心理学会第 50 回大会準備委員会

司会：

安藤清志（東洋大学社会学部）

- 4) 日時：2009年11月22日(日) 14:00～16:00  
 場所：東洋大学白山校舎1号館1B13教室  
 講師：Eric Stocks (University of Texas at Tyler)  
 テーマ：「Cognition and Vicarious Emotions」  
 司会：  
 安藤清志(東洋大学社会学部)
- 5) 日時：2009年11月27日(金) 14:00～16:00  
 場所：東洋大学白山校舎5号館5201教室  
 講師：Eric Stocks (University of Texas at Tyler)  
 テーマ：「Methodological Pitfalls of Galilean and Variance-Accounted-for Approaches to the Study of Human Altruism」  
 司会：  
 安藤清志(東洋大学社会学部)
- 6) 日時：2009年12月12日(土) 16:00～18:00  
 場所：東洋大学白山校舎6号館6313教室  
 講師：Neil Greenberg (Professor in Military Mental Health Academic Centre for Defence Mental Health)  
 テーマ：「Organisations and Mental Health “Some do’s and don’t” (イギリスの惨事ストレスケア消防からジャーナリストまで)」  
 企画趣旨  
 松井豊(筑波大学)  
 司会：  
 安藤清志(東洋大学社会学部)  
 共催：  
 報道人ストレス研究会
- 7) 日時：2010年2月22日(月) 16:00～17:30  
 場所：東洋大学白山校舎6号館6313教室  
 講師：Bob Montgomery (University of the Sunshine Coast and Private Practice, Gold Coast, Australia)  
 テーマ：「Psychological responses to disasters: An empirically informed approach to facilitating preparation for disasters and helping survivors effectively and safely, in the field and in the clinic (災害に対する心理的反応～災害へ備えを促進し、被災者を現場とクリニックで効果的かつ安全に援助するための実証に基づくアプローチ)」  
 司会：  
 安藤清志(東洋大学社会学部)  
 後援：  
 (社)日本心理学会

### 3. 研究交流会

- 1) 日時：2009年6月14日(日) 12:30～18:10  
 場所：東洋大学白山校舎3号館第2会議室  
 テーマ：RJ 全国交流会  
 報告：  
 ①諸外国におけるRJ実践の動向—地域に根ざした司法を中心に：染田恵(法務省)  
 ②兵庫県弁護士会の「犯罪被害者・加害者対話センター」の発足：前野育三(弁護士)  
 ③島根あさひにおけるRJ教育およびVOM計画：藤岡淳子(大阪大学)  
 ④修復的司法が犯罪被害者等に受け入れられない理由について：森田茂敬(東海大学研究生)  
 ⑤千葉対話の会「事例報告」：田口淑子(千葉対話の会)  
 ⑥日本におけるVIP(Victim Impact Panel)一どのような意味を持つか：辰野文理(国土館大)  
 ⑦刑事施設における被害者の視点を取り入れた教育：小柳武(常磐大学大学院)

共催：RJ研究会

- 2) 日時：2010年1月30日(土) 16:00より  
場所：東洋大学2号館会議室B  
講師：四方由美准教授(宮崎公立大学)  
テーマ：「犯罪報道における女性」

#### 4. 学会活動

福岡欣治(川崎医療福祉大学)・井上果子(横浜国立大学)・松井豊(筑波大学)・安藤清志(東洋大学)・結城裕也(東洋大学大学院)・畑中美穂(名城大学)・板村英典(関西大学) 2009年 ジャーナリストの惨事ストレス(15)―新聞ジャーナリストにおける職務ストレスとソーシャル・サポート― 日本心理学会第73回大会 2009年8月26日～28日

福岡欣治(川崎医療福祉大学) ストレス体験に伴う自己概念の変化と精神的健康―ソーシャル・サポートの役割に注目して― 日本健康心理学会第22回大会 2009年9月7日～8日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)・松井豊(筑波大学)・安藤清志(東洋大学)・畑中美穂(名城大学)・結城裕也(東洋大学大学院)・板村英典(関西大学) ジャーナリストの惨事ストレス(17)―新聞社管理職における職務ストレスとソーシャル・サポート― 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会合同大会発表論文集 2009年10月10日～12日

福岡欣治(川崎医療福祉大学) 社会的スキル、自己開示、ソーシャル・サポートと大学生の孤独感―知覚されたサポートと実行されたサポートの関連に注目して(2)― 日本パーソナリティ心理学会第18回大会発表論文集 2009年11月28日～29日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)・井上果子(横浜国立大学)・松井豊(筑波大学)・安藤清志(東洋大学)・畑中美穂(名城大学) ジャーナリストの惨事ストレス(20)管理職の惨事ストレス経験と部下の日常ストレスへの対応 日本トラウマティック・ストレス学会第9回大会 2010年3月6日～7日

畑中美穂(名城大学)・松井豊(筑波大学)・安藤清志(東洋大学)・井上果子(横浜国立大学)・福岡欣治(川崎医療福祉大学)・結城裕也(東洋大学大学院)・板村英典(関西大学) ジャーナリストの惨事ストレス(14)―新聞ジャーナリストにおける外傷性ストレスの規定因― 日本心理学会第73回大会 2009年8月26日～28日

畑中美穂(名城大学)・松井豊(筑波大学)・安藤清志(東洋大学)・井上果子(横浜国立大学)・福岡欣治(川崎医療福祉大学) ジャーナリストの惨事ストレス(18)放送ジャーナリストにおける惨事経験と惨事ストレス対策に対する意見との関連 日本トラウマティック・ストレス学会第9回大会 2010年3月6日～7日

細井洋子(東洋大学) シンポジウム『被害者学のパースペクティブ』パネリスト「被害者参加制度を研究者の視点からみる」 日本犯罪被害者学会20周年記念大会 2009年6月13日

今井芳昭(東洋大学) 『計画的行動理論から見た環境配慮行動』 日本心理学会第73回大会 2009年8月26日～28日

今井芳昭(東洋大学) 『論拠の提示順序・提示段階数、受け手の自我関与度・認知欲求度が説得メッセージへの応諾度に及ぼす影響』 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会合同大会 2009年10月12日

片平潤彦(東洋大学), 寺岡章雄(京都大学大学院) 『「疑わしきは措置をとる」原則の制度化と徹底を ―「薬害の歴史」からみた薬害防止策の基本』 第50回日本社会医学会 2009年6月27日

片平冽彦（東洋大学），牧野忠康（日本福祉大学），山崎喜比古（東京大学），小澤温（東洋大学）『薬害 C 型肝炎被害者の受けた被害と社会的支援の課題 — 第 1 報 文献的考察 —』日本社会福祉学会第 57 回全国大会 2009 年 10 月 11 日

片平冽彦（東洋大学）『「タミフルによる突然死は否定できる」か？』新医協第 62 回全国研究集会 薬学領域部会 2009 年 11 月 23 日

片平冽彦（東洋大学），小池盛明・中村建・中村喜一郎（協立医師協同組合）・八田加奈子・宮地典子（きよせ北口薬局）『副作用情報評価は医療機関と製薬企業とで異なる — イレッサとタミフルの事例調査の場合 —』新医協第 62 回全国研究集会 薬学領域部会 2009 年 11 月 23 日

片平冽彦（東洋大学），小池盛明・中村建・中村喜一郎（協立医師協同組合）・八田加奈子・宮地典子（きよせ北口薬局）『副作用報告における担当医と企業の因果関係判定の相違度（2）リン酸オセルタミビル（タミフル）服用 48 例の場合』日本社会薬学会 第 28 年会 2009 年 11 月 29 日

加藤司（東洋大学）ワークショップ『ネガティブ感情の働き』指定討論 日本感情心理学会第 17 回大会 2009 年 5 月 29 日

北村英哉（東洋大学）ワークショップ『ネガティブ感情の働き』企画・司会・話題提供 日本感情心理学会第 17 回大会 2009 年 5 月 29 日

北村英哉（東洋大学）・佐藤重隆（東洋大学）『災害プライミングが災害関連リスク認知に及ぼす影響について』日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第 56 回大会合同大会 2009 年 10 月 11 日

Hideya Kitamura(Toyo University) & Shigetaka Sato(Toyo University) Effects of disaster priming on the perception of risk and expectation of positive events. Presented at The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, January 28, 2010 in Las Vegas, Nevada.

清水裕（昭和女子大学）『大学生の防災行動の実態と防災行動を規定する要因』日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第 56 回大会合同大会 2009 年 10 月 10 日～12 日

竹田葉留美（千葉大学）・原島雅之（千葉大学）・小口孝司（立教大学）『過去の出来事の想起がストレス変化に及ぼす影響』日本心理学会第 73 回大会 2009 年 8 月 28 日

Yumiko Yamamoto(Department of Health Sociology, Division of health Science and Nursing, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo), Yoshihiko Yamazaki(Department of Health Sociology, Division of Health Science and Nursing, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo), Kiyohiko Katahira(Toyo University). “ A study of the bereaved of drug-induced Creutzfeldt-Jakob disease patients in Japan: Care giving experiences and psychological impacts.” The World Society of Victimology's 13th International Symposium on Victimology, August 26, 2009.

結城裕也（東洋大学大学院）・安藤清志（東洋大学）・井上果子（横浜国立大学）・松井豊（筑波大学）・畑中美穂（名城大学）・福岡欣治（川崎医療福祉大学）・板村英典（関西大学）ジャーナリストの惨事ストレス（16）—新聞ジャーナリストにおける職務上の自己開示— 日本心理学会第 73 回大会 2009 年 8 月 26 日～28 日

結城裕也（東洋大学大学院）・福岡欣治（川崎医療福祉大学）・安藤清志（東洋大学）・井上果子（横浜国立大学）・松井豊（筑波大学）ジャーナリストの惨事ストレス（19）新聞ジャーナリストにおける惨事経験と惨事ストレス対策に対する意見との関連 日本トラウマティック・ストレス学会第 9 回大会 2009 年 3 月 6 日～7 日

## 5. 論文

Ando, K. (2009) Long-term support for the victims of disaster: A social psychological perspective. Proceedings of the International Seminar on Disaster Prevention Technology, 159-171.

大坊郁夫・堀毛一也・相川充・安藤清志・大竹恵子 (2009) well-being を目指す社会心理学の役割と課題 対人社会心理学研究, 9, 1-31.

福岡欣治 (2010) 日常ストレス状況体験における親しい友人からのソーシャル・サポート受容と気分状態の関連性 川崎医療福祉学会誌, 19(2), 319-328.

畑中美穂・結城裕也・福岡欣治・松井豊・安藤清志・井上果子・板村英典 (2009) 新聞ジャーナリストが経験する惨事の特徴とストレス反応 横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援統合センター研究論集, 9, 101-120.

畑中美穂・松井豊・結城裕也・福岡欣治・安藤清志・井上果子・板村英典 (2010) ジャーナリストのための PTSD 予防チェックリスト作成の試み 筑波大学心理学研究, 39, 57-64.

Hatanaka, M., Matsui, Y., Ando, K., Inoue, K., Fukuoka, Y., Koshiro, E., & Itamura, H. (2010) Traumatic Stress in Japanese Broadcast Journalists. Journal of Traumatic Stress, 23, 173-177.

細井洋子 (2009) 「犯罪被害者・加害者の関係性構築の戦略を考える」 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 6, 69~72.

細井 洋子 (2010) 「被害者参加制度を考える」『被害者学研究』20 号, 日本犯罪被害者学会

片平洌彦 (2009) 「薬害事件における加害・被害関係と社会 イレッサ薬害事件の場合」 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 6, 59~66.

片平洌彦 (2009) 「「薬害の歴史」からみた薬害防止策の基本とその具体策（第一報）」社会医学研究 第 26 巻 2 号, 125~132.

片平洌彦・中島晃 (2009) 「「薬害イレッサ事件」の検証」社会薬学 Vol.28 No.2, 110.

北村英哉・佐藤重隆 (2009) 「災害プライミングが災害関連リスク認知に及ぼす影響について」 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 6, 35~40.

久保ゆかり (2009) 「対人的なコンフリクトの収め方の発達」 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 6, 41~46.

大島尚 (2009) 「ベトナムの環境問題とコミュニティ意識」 東洋大学「エコ・フィロソフィ」研究, 3, 39-65.

清水裕 (2009) 「大学生の防災行動の実態と防災行動を規定する要因」 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 6, 47~56.

山本由美子・片平洌彦 (2009) 「集団予防接種による B 型肝炎感染者の被害実態調査について」 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 6, 67~68.

結城裕也・板村英典・安藤清志・井上果子・松井豊・畑中美穂・福岡欣治 (2009) 新聞ジャーナリストの惨事ストレス対策に関する意識 横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援統合センター研究論集, 9, 81-98.

結城裕也・畑中美穂・福岡欣治・井上果子・板村英典・松井 豊・安藤清志 (2010) 新聞ジャーナリストにお

ける職務上の自己開示—職階からの検討— 東洋大学大学院社会学研究科紀要, 46, 印刷中.

## 6. 著書

安藤清志 (2009) 「喪失体験と自己」 安藤清志 (編著) 『自己と対人関係の社会心理学 (21 世紀の社会心理学 13)』 北大路書房, pp.138-149.

細井洋子 (2009) 被害者法令ハンドブック編集委員会 (編著) (西村春夫・細井洋子・高橋則夫編集代表) 『被害者法令ハンドブック』 中央法規出版

今井芳昭 (2009) 「依頼と説得：部下にどのように影響を与えるのか (第 14 章)」 小口孝司・楠見 孝・今井芳昭 (編) 『仕事のスキル』 北大路書房, pp.171-183.

今井芳昭 (2009) 「社会的勢力、依頼と応諾」 日本社会心理学会 (編) 『社会心理学事典』 丸善, pp. 246-247, pp. 286-287.

今井芳昭 (2010) 「環境配慮行動と説得の技法」 松尾友矩・竹村牧男・稲垣 諭 (編) 『エコ・フィロソフィ入門』 ノンブル社, pp.159-178.

片平冽彦 (2009) 「薬害肝炎の経過と被害の実態」 薬害肝炎全国原告団出版委員会 (編) 『薬害肝炎とたたかい — 350 万人の願いをかかげて』 桐書房, pp.26-46.

大島 尚 (2010) 「持続可能性から見た現代人の社会的規範、価値観の現状と課題」 佐和隆光 (編著) 『グリーン産業革命—社会経済システムの改編と技術戦略』 日経 BP 社

## 7. その他

片平冽彦 (東洋大学) 「『疑わしき』は措置をとれ」朝日新聞「私の視点」2010 年 1 月 15 日朝刊

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

〔研究員〕

安藤清志 (東洋大学社会学部教授) 〔統括責任者〕

大島 尚 (東洋大学社会学部教授)

島崎哲彦 (東洋大学社会学部教授)

黒澤 香 (東洋大学社会学部教授)

北村英哉 (東洋大学社会学部教授)

今井芳昭 (東洋大学社会学部教授)

久保ゆかり (東洋大学社会学部教授)

片平冽彦 (東洋大学社会学部教授)

細井洋子 (東洋大学社会学部教授)

原山 哲 (東洋大学社会学部教授)

加藤 司 (東洋大学社会学部准教授)

谷口尚子 (東洋大学社会学部准教授)

関谷直也 (東洋大学社会学部講師)

〔客員研究員〕

松井 豊（筑波大学教授）  
福岡 欣治（川崎医療福祉大学准教授）  
小口 孝司（立教大学准教授）  
清水 裕（昭和女子大学准教授）  
田中 淳（東京大学教授）

〔研究支援者〕

鈴木 公啓（東洋大学社会学部）

〔リサーチ・アシスタント〕

白井 美穂（東洋大学大学院社会学研究科）  
田中 智仁（東洋大学大学院社会学研究科）  
佐藤 史緒（東洋大学大学院社会学研究科）